

「管内市町村社会教育・生涯学習関係職員等研修会」事業報告

1 事業名 令和元年度 管内市町村社会教育・生涯学習関係職員等研修会

2 期 日 令和元年6月11日（火）

3 参加者 38名

4 日 程

時 程	内 容
13:20	受 付
13:40	開会行事
13:50	研修1〈実践事例発表〉 『寺子屋』からスタートの安全・安心で、絆と人情あふれる地域づくり 福智町 赤池26区公民館 館長 阿世賀 寛行 氏
14:10	研修2〈講話〉 「ひとをつなぐ『場』づくりの可能性—『子どもの居場所』実践から考える—」 北九州市立大学 文学部人間関係学科 准教授 子どもの遊び場「きんしゃいきゃんぱす」代表 山下 智也 氏
15:30	研修3〈交流〉 「地域づくりにつなげるための事業づくり—グループワークを通して—」 福岡県教育庁筑豊教育事務所 社会教育主事 帆足 梓 ※講評 北九州市立大学 文学部人間関係学科 准教授 子どもの遊び場「きんしゃいきゃんぱす」代表 山下 智也 氏
15:40	
16:30	閉会行事
16:40	閉会行事

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、福智町赤池26区公民館の阿世賀館長による、子どもを対象とした「寺子屋」の事業を皮切りに、住民同士のつながりを生み出す取組みについての実践発表を行いました。

週1回のペースで発行する地域通信「生力の絆」で地域住民に地域の情報を伝えたり、気軽に参加できるような行事を企画したりすることで参加住民を増やしてきた取組みや、現在の課題や今後の展望などについて発表を行いました。参加者は熱心にメモをとっていました。

(2) 活動写真



実践発表をする阿世賀館長



阿世賀館長の発表を聞く参加者

(3) 参加者の声

○地域の方がこんなに活動を行っていることを初めて知りました。

○たくさんの通信を発行され、実践を地域に還元していることがまたエネルギーになっているように思えました。

(アンケートで出された質問)

○運営費は組費と町助成金で運営していると思うが、1世帯当たりいくら徴収しているのか知りたい。

→1世帯あたり毎月500円徴収。町からは年間3～4万円の補助金で運営しているとのこと。

※回答については、阿世賀氏に確認をしています。

研修 2

(1) 内容

研修 2では、子どもの遊び場「きんしゃいきやんばす」代表・北九州市立大学 文学部人間関係学科の山下准教授による子どもたちをとりまく環境についての講話を行いました。

時折、参加者同士の意見交流を交えながら、子どもたちの遊びの空間・時間・仲間の3つの間「三間」が減少している実態について数値やグラフを示しながらわかりやすく説明を行いました。また、10年以上取組みが続く「きんしゃいきやんばす」の空間の作り方や子どもたちの自発的な遊びを引き出すための心掛け、そして今現在、成長した子どもたちが戻ってきて「きんしゃいきやんばす」に立ち寄ったり、活動に加わったりしていることなどを話してもらいました。

(2) 活動写真



講話を行う山下准教授



山下准教授の講話を聴く参加者

(3) 参加者の声

- 子どもの自主性を大切にし、与えるのではなく、きっかけづくりや待つ、ということで、子どもが楽しめている（姿が）いいなと思いました。
- 子どもをとりまく環境について理論実践共に学びました。子どもを軸（中心）に様々なつながりづくりができると感じました。

研修 3

(1) 内容

研修 3では、担当業務別のグループワークを行いました。進め方の説明後、参加者自身が担当している事業について、「つながりづくりのためには、どのような工夫が考えられるか」を視点に意見を交流しました。全体交流では発表したグループの内容について、講師の山下准教授から講評してもらうことで、事業を見つめなおす機会となっていたようでした。

(2) 活動写真



グループワークを行う参加者



山下准教授の講評を聴く参加者

(3) 参加者の声

- 他町村の取組みを聞けることは非常に良かったです。自分たちの所でもどう活かせるのか、参考になりました。
- みなさんがどこつながろうとしているのか、実はどこつながっていたのかを可視化することができました。

6 全体をとおして

今回の研修会は、「子どもの居場所を核とした地域づくり」をテーマに設定しました。自治公民館の実践事例発表ということで、参加者は小さなコミュニティでの場づくりの事例として興味深く聞いていました。特に子どもたちの事業を皮切りに、地域の人々が集う事業を立ち上げ、その結果地域の人々が集い、つながりができていく様子が印象に残ったようでした。

講話では、子どもの事業に取り組んでいる参加者にとって、子どもをとりまく環境や、何のために事業をするのか、改めて考える機会になったようでした。

交流では、参加者同士で自分の担当している事業について説明をしたり、課題を整理したりして話し合う中で、新たな視点を持つことができたり、新たなつながりづくりの場について考えることができました。参加者からは「毎日の業務の中で、何を大切にしたいのか、見失う、あきらめることも。立ちどまって考え、何をやりたいか再確認できました。」「色々な『つながり』を活かし、新たな展開を意図的に活かしていきたいです。』という感想が聞かれ、有意義な時間となりました。